

論文のタイプ	総説
Author	D. K. Hatsukami;L. F. Stead;P. C. Gupta
Title	Tobacco addiction
和訳タイトル	たばこ依存症
Journal	Lancet
巻	371
号	9629
ページ	2027-38
年	2008
キーワード	禁煙プログラム、行動療法、ニコチン依存症、神経分子生物学
読んだ人	木田 厚瑞
読んだ期日	平成 21 年 3 月 12 日
重要度 (アカデミック)	5
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>喫煙による死亡数は毎年 500 万人に達し、早期死亡の原因の最たるものである。包括的なたばこ規制のプログラムがたばこ消費を減少させる効果がある。このような包括的なたばこ規制のプログラムの最重要項目はたばこ依存症のための準備である。治療は神経生物学と行動過程に関するものが含まれていなければならない。さらに禁煙させるための助言、援助を整備しなければならないし必要な治療にたやすく応じられるシステム作りが大切である。禁煙を勧めるために薬物、行動パターンの変化をもたらすことはもちろん大切であるが再喫煙に脱落してしまう率が高いことからニコチン依存という面が強調されるべきである。治療における将来の課題として個々の患者に適した治療の選択、新しい治療薬の組み合わせ、ニコチン耽溺性が検討されなければならない。</p>

論文のタイプ	多数の研究の比較
Author	T. Lancaster;L. F. Stead
Title	Individual behavioural counselling for smoking cessation
和訳タイトル	
Journal	Cochrane Database Syst Rev
巻	2
号	
ページ	CD001292
年	2005
キーワード	コクラン、禁煙、短時間のカウンセリング
読んだ人	木田 厚瑞
読んだ期日	平成 21 年 3 月 12 日
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>禁煙に至らせるためには個別的に専門家が対応することが大切である。個別的カウンセリングの効果に関する論文を比較検討した。カウンセリングに関する Cochrane Tobacco Addiction Group Specialized Register として登録された研究を比較した。2004 年 12 月時点でのデータ。ここに取り上げた文献の基準は無作為試験で対面式によるカウンセリングであり日常臨床の関与するスタッフによるものは除外。禁煙カウンセリング開始後 6 ヶ月目のアウトカムを比較した。7000 人以上の参加者から成る 21 の治験データを集積。18 治験については個別的カウンセリングと最小限の行動療法と比較であり、4 治験はカウンセリングの様式がことなるか介入の程度が異なるものである。個別的なカウンセリングの方が対照群より効果的であった。禁煙達成のオッズは 1.56 (95% CI は 1.32 -1.84)。ニコチン補充治療を受けたサブグループの解析では効果はより小さく、有意差に達せず (odds ratio は 1.34, 95% CI 0.98 -1.83)。強力なカウンセリングと短時間のカウンセリングの間に有意差を認めず (odds ratio 0.98, 95% CI 0.61 - 1.56)。結論として禁煙のカウンセリングは効果がある。</p>

論文のタイプ	
Author	J. Litt
Title	Smoking and GPs: time to cough up: successful interventions in general practice
和訳タイトル	喫煙とGP：一般診療におけるうまい対処方法
Journal	Aust Fam Physician
巻	34
号	6
ページ	425-9
年	2005
キーワード	
読んだ人	石井 健男
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	
重要度 (啓蒙的)	
抄録	<p>背景：オーストラリアにおいて、喫煙は死亡及び疾患の最大の単一予防可能原因である。たばこの喫煙は推定で1年あたり19000人の死亡者と142500回の入院の原因となっている。人口の約23%が喫煙者である。患者側はGPを禁煙のカギでありサポートの役割をもつと考えている。</p> <p>単的に言うと、GPから繰り返し中立な立場でのアドバイスは効果的である。しかしながら、GPは診療において半分の喫煙者しか見だせておらず、三分の一にしか禁煙のためのカウンセリングをしていない。</p> <p>目的：本論文ではGPの役回りについて議論をしている。すなわち、最近のオーストラリア禁煙ガイドラインのまとめを示し、GPが実際の診療の場にて手に入れられる効果的な診療方法の幅を示し、喫煙患者すべてにルーチンに提供できる対処方法を概説した。</p> <p>議論：GPによる禁煙指導は、禁煙に対する包括的なアプローチ、カウンセリングについてのより戦略的アプローチ、5Aモデルの利用により有意に改善されうる。喫煙患者に短時間で行動についてのカウンセリングを提供するための動機付けを目指したインタビュー法、看護師の効果的な利用、禁煙プログラムから提供されている電話サービスは重要な戦略である。</p>

論文のタイプ	
Author	C. M. McBride;K. M. Emmons;I. M. Lipkus
Title	Understanding the potential of teachable moments: the case of smoking cessation
和訳タイトル	教える瞬間の可能性の理解：禁煙における場合
Journal	Health Educ Res
巻	18
号	2
ページ	156-70
年	2003
キーワード	
読んだ人	石井 健男
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	
重要度 (啓蒙的)	
抄録	<p>教える瞬間 (teachable moment (TM)) という言葉は、健康上のリスクを減らす行動に移りたいと個人に思わせるような健康上の出来事を表現するのに使われている。この原稿では、禁煙の場合の TMs のエビデンスをまとめており、次世代の関連した研究を改善するために概念や方法上の改良の仕方を提示、推奨している。TM についての研究が認識しようとしている出来事のカテゴリーとしては、診療所の訪問、異常な検査結果の通知、妊娠、入院と疾患の診断などがあげられる。妊娠、入院及び疾患の診断に関連した禁煙率は高いが (前者は 10-60%, 後者は 15-78%)、一方診療所の訪問や異常な検査結果は一致して低い禁煙率となっている (2-10%及び 7-21%)。一般的に受け入れられている概念モデルからすると、TM が禁煙をするのに十分なものであるかどうかは以下の 3 つのドメインから規定される。(1) その出来事が個人のリスクやアウトカムへの理解を高める (2) 愛情あるいは感情的な反応を惹起する (3) 自分自身あるいは社会における役割について定義しなおさせる、という三つである。TM に関する研究をより改善するためには、認知及び感情の変量評価により注意を払うこと、適切なタイミングで評価と介入を行うこと、適切な研究対象及び比較対象を得ることが重要である。</p>

論文のタイプ	
Author	A. McEwen;R. West;L. Owen
Title	GP prescribing of nicotine replacement and bupropion to aid smoking cessation in England and Wales
和訳タイトル	イングランド及びウエールズにおける禁煙補助薬としてのニコチン置換療法とブプロピオンのGPによる処方
Journal	Addiction
巻	99
号	11
ページ	1470-4
年	2004
キーワード	
読んだ人	石井 健男
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	
重要度 (啓蒙的)	
抄録	<p>目的：禁煙のためのニコチン置換療法（NRT）またはブプロピオンの処方、公衆衛生において非常に重要であるが、実際の処方状況についてはほとんど知られていない。本論文においては、これらの薬剤が払い戻されるイギリスにおいてのGPによる処方パターンを検討した。本研究の結果は、他の保険医療システムにおいて払い戻しの導入の検討を考慮させることができるかもしれない。</p> <p>研究デザイン、対象など：2002年にランダムにイングランド及びウエールズの1088人のGPに郵送による調査を行い、59%に当たる642人から回答を得た。</p> <p>方法：前月にNRT及びブプロピオンについて患者からGPが受けた処方要望、実際のこれらの処方数、これらの治療法に対する態度（考え）についてGPから報告を得た。</p> <p>結果：GPは、前月に平均してNRTについて4.3回、ブプロピオンについて1.9回処方の希望を得ている。実際にはNRTを3.5回、ブプロピオンを1.2回処方している。ほとんどすべてのGPがNRT（95%）及びブプロピオン（97%）がNational Health Service（NHS）か処方代の払い戻しがなされるべきだと考えている。しかしながら、処方希望を受けている一部のGP達は全く処方をしていない（NRTについて8%、ブプロピオンについて26%）。これは、GPが</p>

NRT及びブプロピオンについてNHSからの払い戻しが受けられると
考えているかどうかと関連しており (OR = 0.66, P < 0.05)、こ
れは言い換えれば喫煙者は治療費は自分で払うべきだとの考え、
NRT/ブプロピオンの対費用効果、薬剤予算における NRT/ブプロピ
オンへの優先順位の低さと関連している。ブプロピオンについて
は、副作用への危惧が非処方と独立して相関していた[odds ratio
(OR) = 1.46, P < 0.03]。

結論：科学技術評価や医療側からのガイドラインにしっかりと立
脚した数少ないG Pのみが禁煙治療に否定的な対応を取っている
といえる。

論文のタイプ	
Author	A. McEwen;R. West;A. Preston
Title	Triggering anti-smoking advice by GPs: mode of action of an intervention stimulating smoking cessation advice by GPs
和訳タイトル	GPによる禁煙アドバイスの引き金：GPにより禁煙アドバイスをさせるような介入方法。
Journal	Patient Educ Couns
巻	62
号	1
ページ	89-94
年	2006
キーワード	
読んだ人	石井 健男
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	
重要度 (啓蒙的)	
抄録	<p>目的：禁煙に向けてのGPのアドバイスの頻度を上げるような介入方法 (GP desktop resource, GDR) の評価。</p> <p>方法：GDR のやり方に関する3つの仮説を弁別するような解析を行った。GDRは(1) GPの態度を変化させることにより(2) 喫煙者に介入すべくGPを惹起することとは無関係に(3) 態度と行動との関係を変化させることにより、の3通りの形で機能すると仮定した。</p> <p>結果：GDRは禁煙をアドバイスされた患者数の独立した予測因子であった(beta = .345, p < .001)。医者-患者間の関係についての危惧(態度)は、アドバイスを与えることに対する独立した否定的予測因子にすぎなかった(beta = -.465, p < .001)。GDRを有していることは喫煙者への介入が医者-患者間の関係を悪化させるかについてのGPの見方を変化させなかったが、介入しようという姿勢は弱まり禁煙をアドバイスされた患者数は減少した(beta = .595, p < .001)。</p> <p>結語：本研究は、医者-患者間の関係が“アドバイスすること”への独立した予測因子になることを初めて示した。他の研究ではGPが気にしていることとして言及されているだけである。GPの行動の引き金となるべくデザインされたシンプルなツールは、禁煙</p>

指導行動を妨げる姿勢上の障壁を和らげる効果を有するようと思われる。医療関係者（health professional）における健康増進活動との一般的関連について、この現象をより探究していくのは興味深いと思われる。

実際の診療において：GPとしては、医者－患者関係を悪化させるのではとの危惧が健康増進活動を患者に進めることを妨げる足かせとなっている。喫煙患者に禁煙アドバイスするようGPに促すことにGDRは効果を有し、GDRはGPにより普及させるべきである。

論文のタイプ	
Author	L. Ranney;C. Melvin;L. Lux;E. McClain;K. N. Lohr
Title	Systematic review: smoking cessation intervention strategies for adults and adults in special populations
和訳タイトル	包括的な総説：成人及びその中の特別な一群に対する禁煙介入の戦略について
Journal	Ann Intern Med
巻	145
号	11
ページ	845-56
年	2006
キーワード	
読んだ人	
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	
重要度 (啓蒙的)	
抄録	<p>背景：禁煙介入は役立つようだが、どのようにしてその効率を上げるかには疑問がある。</p> <p>目的：成人の中で特別な一群に対する効果的な禁煙治療戦略の検討</p> <p>データ元：MEDLINE, Cumulative Index to Nursing and Applied Health (CINAHL), Cochrane Library, Cochrane Clinical Trials Register, Psychological Abstracts, 及び Sociological Abstracts (1 January 1980年1月1日から2005年6月10日)</p> <p>研究の選別：包括的な総説；ランダム化比較試験；観測的研究</p> <p>データ抽出：二人の査読者が独立して、研究デザイン、母集団、サンプルの大きさ、治療、アウトカム、及び質についてデータ抽出を行った。</p> <p>データ合成：包括的な総説からの結果をまとめ、総説の時期より後に出版された原著からの結果と比較した。エビデンスのつよさは、エビデンスの全体像の評価に用いられた。本総説は、自助、カウンセリング、単剤、複数薬剤による治療、心理的カウンセリングと薬剤療法の併用などの禁煙戦略の効果を評価した研究を含んでいる。既総説における一致した研究知見として、自助戦略のみでは非効果的であり、カウンセリングと薬剤療法は単独でも併</p>

用でも禁煙の成功率を改善しうる。自助による 2 つの研究には効果についての結果に乖離が見られる。カウンセリングについては、5 つの研究にては、結果がはっきりしない(mixed results である)。14 の研究においては、単一の薬剤、2 種類以上の薬剤の併用、心理療法に薬剤療法の併用のある場合及びない場合のそれぞれの効果に十分なエビデンスが見られた。特殊な母集団に対する対処法について焦点をあてた研究はほとんど見られなかった。入院患者についての 3 つの研究では、臨床診断が禁煙成功率に影響を及ぼすとする強いエビデンスがないという点で、既報告の総説と一致した結果が得られている。精神疾患合併の場合や薬物乱用のある場合の禁煙指導方法の効果についての新たなエビデンスは不十分であった。

本論文の限界：既報告の包括的な総説は、上記で記載した内容についてカバーしている領域がまちまちである。より最近の研究は合併症のある患者に対する禁煙指導方法の効能についての研究ができていない。

結語：自助による方法は単独では少ししか禁煙率には寄与しないが、単一の薬剤、2 種類以上の薬剤の併用、カウンセリング単独あるいは薬剤療法の併用は禁煙率を向上させる。効果的な禁煙治療がすべての母集団に対して、また精神疾患罹患者や薬物乱用者といった重度の喫煙者に強く進められる。

論文のタイプ	原著
Author	V. H. Rice;L. F. Stead
Title	Nursing interventions for smoking cessation
和訳タイトル	看護師による禁煙介入
Journal	Cochrane Database Syst Rev
巻	1
号	
ページ	CD001188
年	2008
キーワード	看護師, 短時間アドバイス, カウンセリング, メタ解析
読んだ人	茂木
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	5
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>背景：看護師を含め医療者は喫煙者に禁煙を勧める機会が多い。</p> <p>目的：看護師による禁煙介入の有効性を調べる。方法：看護師による禁煙介入で最低6ヶ月の追跡がされている無作為研究を対象。査読者2名が個別に調査。6ヶ月後の禁煙の有無を評価した。</p> <p>結果：42研究をメタ解析した。31件が看護師介入とコントロールまたは通常介入との比較で、有意な禁煙率だった(RR 1.28, 95% CI 1.18 to 1.38)。結果は多様であったがランダム化モデルの検討では有意差がなかった。低頻度の介入ではわずかなエビデンスを認めた (RR 1.27, 95% CI 0.99 to 1.62)。心血管疾患の入院患者では他疾患に比べ限定的だが介入の効果を認めた。入院外患者の介入でも有効性を認めた。結語：看護師介入の禁煙アドバイス、カウンセリングは効果があるが、介入が短時間である場合や、禁煙が専門ではない看護師の場合は効果のエビデンスとしては弱い。</p>

論文のタイプ	原著
Author	N. A. Rigotti;M. R. Munafo;L. F. Stead
Title	Smoking cessation interventions for hospitalized smokers: a systematic review
和訳タイトル	喫煙入院患者の禁煙介入
Journal	Arch Intern Med
巻	168
号	18
ページ	1950-60
年	2008
キーワード	入院患者, カウンセリング, ニコチン置換療法, プロピオン
読んだ人	茂木
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	5
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>背景：入院は禁煙のよい機会である。入院中の禁煙治療介入の効果を検証した。方法：Cochrane Tobacco Addiction Review を用い無作為試験を2名の査読者により評価した。結果：33 試験を検討し入院時から退院1ヶ月後までの禁煙カウンセリングにより6-12ヶ月の禁煙率が増加した(pooled odds ratio [OR], 1.65; 95% confidence interval [CI], 1.44-1.90)。ニコチン置換療法を追加した場合、カウンセリングのみに比べ効果が増した(OR, 1.47; 95% CI, 0.92-2.35)。プロピオンを追加した検討では有意ではなかった(OR, 1.56; 95% CI, 0.79-3.06)。結語：入院患者に対する禁煙カウンセリングは有効であり、ニコチン離脱症状の患者にはニコチン置換療法とカウンセリングを行うことが禁煙率をより増加させるかもしれない。</p>

論文のタイプ	原著
Author	S. Rubak;A. Sandbaek;T. Lauritzen;B. Christensen
Title	Motivational interviewing: a systematic review and meta-analysis
和訳タイトル	動機づけ面接のレビューとメタ解析
Journal	Br J Gen Pract
巻	55
号	513
ページ	305-12
年	2005
キーワード	動機づけ面接, 生活習慣病
読んだ人	
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>背景：動機づけ面接は生活習慣上の問題や疾病の有効な治療手段として知られる。目的：異なる領域における動機づけ面接の効果とアウトカムの評価を行った。方法：72 件の動機づけ面接に関する無作為研究を対象としてメタ解析を行った。結果：動機づけ面接は BMI, 総コレステロール値, 収縮期血圧, 血中アルコール濃度については有意な効果を認めたが, 喫煙, HbA1c については有意ではなかった。動機づけ面接は身体的疾患と精神的疾患のいずれも同程度の効果を認めた。15 分間の短時間の動機づけ面接でも 64% の研究で効果を認めた。結語：動機づけ面接は行動問題や疾病に対して, 従来のアドバイスに比べより効果的である。日常診療における有効性をより大規模に検討すべきである。</p>

論文のタイプ	原著
Author	R. Soria;A. Legido;C. Escolano;A. Lopez Yeste;J. Montoya
Title	A randomised controlled trial of motivational interviewing for smoking cessation
和訳タイトル	禁煙における動機づけ面接
Journal	Br J Gen Pract
巻	56
号	531
ページ	768-74
年	2006
キーワード	動機づけ面接, 禁煙アドバイス, プロピオン, プライマリケア
読んだ人	茂木
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>背景：動機づけ面接はアルコール依存症の治療で始まった依存行動の治療手段である。禁煙における動機づけ面接の効果は不明である。目的：動機づけ面接と従来の禁煙アドバイスのどちらが効果があるかを検討する。方法：プライマリケアにおける無作為化試験。200人の喫煙者を従来の禁煙アドバイス(n = 86)、動機づけ面接(n = 114)に分類。ニコチン依存度が高い場合(Fagerstrom score >7)はプロピオン内服を併用した。6, 12ヶ月後の禁煙率を評価。呼気CO濃度(< 6ppm)にて禁煙を確認した。結果：動機づけ面接群は禁煙アドバイス群に比べ5.2倍高い禁煙率であった(18.4% : 3.4%; 95% confidence interval = 1.63 to 17.13)。結論：動機づけ面接は簡便な禁煙アドバイスに比べて有効である。</p>

論文のタイプ	原著
Author	L. F. Stead;G. Bergson;T. Lancaster
Title	Physician advice for smoking cessation
和訳タイトル	医師による禁煙のアドバイス
Journal	Cochrane Database Syst Rev
巻	2
号	
ページ	CD000165
年	2008
キーワード	短時間アドバイス, 集中アドバイス,
読んだ人	茂木
読んだ期日	
重要度 (アカデミック)	5
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>背景：医療者は健康のため喫煙者に禁煙を勧める機会が多い。このようなアドバイスは短時間または集中的アドバイスの場合がある。目的：医師による禁煙アドバイスの有効性、短時間と集中介入の比較を検討。方法：Cochrane Tobacco Addiction Group trials register を基に医師の禁煙介入で最低 6 ヶ月の追跡がされている無作為研究を対象。6 ヶ月後の禁煙の有無をメインアウトカムとした。可能であれば死亡率への影響も評価した。1972～2007 年の 41 研究、のべ 31000 人の喫煙者が対象。大半のアドバイスはプライマリケアで行われた。17 件でアドバイスありがアドバイスなしよりも有意に効果あり (relative risk (RR) 1.66, 95% confidence interval (CI) 1.42 to 1.94)。集中アドバイスと短時間では前者がやや効果が高い (RR 1.37, 95% CI 1.20 to 1.56)。短時間アドバイスの禁煙率への効果は小さい。自力の禁煙率が 2, 3%とすれば、短時間介入で 1-3%増加する。</p>

論文のタイプ	
Author	M. B. Steinberg;A. C. Schmelzer;D. L. Richardson;J. Foulds
Title	The case for treating tobacco dependence as a chronic disease
和訳タイトル	慢性疾患としてのタバコ依存症の治療
Journal	Ann Intern Med
巻	148
号	7
ページ	554-6
年	2008
キーワード	
読んだ人	黒崎
読んだ期日	March 10, 2009
重要度 (アカデミック)	
重要度 (啓蒙的)	
抄録	<p>喫煙は、避けられる死の原因となっているが、まだ悪習として多く残っている。ほとんどの喫煙者は、タバコをやめたいが困難と考えている。禁煙治療において、行動のカウンセリングと薬物療法は必要で、かつ安全で効果的である。ニコチン置換療法はタバコの煙の毒素と化学物質への暴露なしで、より安全な投与量でニコチンを投与する。禁煙治療に対する最適な期間が報告されておらず、期間延長を必要とする喫煙者もいるかもしれない。長期の禁煙薬物療法を使用している喫煙者に関しては、健康管理者は治療を奨励するべきであり、保険業者はそれを適応にするべきである。タバコの依存と糖尿病のような慢性疾患は両方とも、他の病気を悪化させる可能性があり、生活習慣の治療、および薬物療法の有効性においても似通っている。これらの類似性にもかかわらず、糖尿病の治療は保険適応とされているが、禁煙治療はしばしば制限される。良い臨床結果を得るのに必要な期間、効果的な治療を行うためには、タバコ依存症は他の慢性疾患と同様に扱われるべきである。</p>

論文のタイプ	
Author	P. Tonnesen;L. Carrozzi;K. O. Fagerstrom;C. Gratziou;C. Jimenez-Ruiz;S. Nardini;G. Viegi;C. Lazzaro;I. A. Campell;E. Dagli;R. West
Title	Smoking cessation in patients with respiratory diseases: a high priority, integral component of therapy
和訳タイトル	呼吸器疾患患者の禁煙：最優先、治療に不可欠
Journal	Eur Respir J
巻	29
号	2
ページ	390-417
年	2007
キーワード	
読んだ人	黒崎
読んだ期日	March 13, 2009
重要度 (アカデミック)	
重要度 (啓蒙的)	
抄録	<p>禁煙は、呼吸器疾患患者の予後を改善する最も重要な方法の一つである。呼吸器疾患患者の禁煙のためのガイドラインの Task Force は、呼吸器患者の禁煙介入時にエビデンスを基準とした推奨を提供するために召集された。現在利用可能なエビデンスと専門の会議のコンセンサスに基づいて、以下の主要な推奨を作成した。</p> <p>1) 呼吸器疾患患者には、普通の喫煙者よりも特に、より緊急に禁煙する必要がある。そのため呼吸器科医は、すべての喫煙者に禁煙の動機づけと継続する方法を与え、禁煙を支援し、治療を提供する役割を果たさなければならない。2) 禁煙治療は患者の呼吸状態の管理と統合して行われるべきである。3) 治療は、薬理的治療（例えば、ニコチン置換療法、bupropion または varenicline）と行動のサポートを統合して行うべきだ。4) 呼吸器科医は、知識、態度、および介入に必要な技能を学ぶため、トレーニングを受けるか、または適切な専門家に委ねるべきだ。5) これらの推奨を実行する費用は、増悪の減少などで一部相殺されるであろうが、実現可能にするための予算は確保されるべきだ。呼吸器患者に対する最適な治療戦略を確立するための研究が必要である。</p>

論文のタイプ	
Author	S. Ulbricht;C. Meyer;A. Schumann;H. J. Rumpf;U. Hapke;U. John
Title	Provision of smoking cessation counseling by general practitioners assisted by training and screening procedure
和訳タイトル	トレーニングとスクリーニング方法によりサポートされた GPs による禁煙カウンセリングの供給
Journal	Patient Educ Couns
巻	63
号	1-2
ページ	232-8
年	2006
キーワード	
読んだ人	黒崎
読んだ期日	March 13, 2009
重要度 (アカデミック)	
重要度 (啓蒙的)	
抄録	<p>目的: 組織的サポートを提供したとき、カウンセリングのトレーニングにより GPs が基準に達することができるかどうか調べる。</p> <p>方法: 無作為に 39 人の GPs が抽出され、34 人が参加した。GPs はまず評価を受け、続いて禁煙カウンセリングのためのトレーニングを受けた。1 週間の期間、受診したすべての患者に、喫煙状況を尋ねた。18-70 才の現喫煙者が抽出され (N=551)、81.8%が対象とされた。研究看護師によって記入された患者の喫煙関連の情報を、GPs に提供した。GPs はすべての患者の評価をカウンセリング後に記入するようにアドバイスされた。GPs の評価が検討された。</p> <p>結果: 禁煙カウンセリングの障害は、時間不足と患者の禁煙の動機づけがなされない点であった。GPs の 96.0%が禁煙カウンセリングを記録した。87.8%の患者がカウンセリングされた。若年の GPs、患者数の多さ、および禁煙関心期は、カウンセリングを実行する予測因子であった。GPs の 79.3%は、実施可能と評価された。</p> <p>結論: 一般診療での禁煙カウンセリングは可能と思われた。</p> <p>実施の意味: スクリーニング手順にスタッフがかかわるのは、GP のカウンセリング活動をサポートするかもしれない。</p>

論文のタイプ	
Author	O. C. van Schayck;H. Pinnock;A. Ostrem;J. Litt;R. Tomlins;S. Williams;J. Buffels;D. Giannopoulos;S. Henrichsen;J. Kaper;O. Korzh;A. M. Rodriguez;S. Kawaldip;N. Zwar;H. Yaman
Title	IPCRG Consensus statement: tackling the smoking epidemic - practical guidance for primary care
和訳タイトル	IPCRG 合意声明: 喫煙病に取り組む — 初期医療のための実際的な指針
Journal	Prim Care Respir J
巻	17
号	3
ページ	185-93
年	2008
キーワード	
読んだ人	黒崎
読んだ期日	March 14, 2009
重要度 (アカデミック)	
重要度 (啓蒙的)	
抄録	<p>現在の流れが変わらないと、20年以内に、喫煙は世界の早死にと障害の一番の原因になる。この流行病を減少させる多くの機会が、初期医療で失われている。International Primary Care Respiratory Group (IPCRG)からのこの提唱は、有効な介入に関する有力なエビデンスに基づく新しいアプローチについてまとめる。(Primary Care Respiratory Groupは初期医療 GPsのニーズに関する IPCRG の理解を反映する) 時間と資源が限られていても、すべての初期医療専門家が、患者の禁煙率を増加させることができる。医療従事者と非医療従事者は、禁煙を選ぶための情報提供をしたり、電話によるカウンセリングサービスの紹介、動機づけのインタビューの技法を使用した行動のカウンセリングで患者のサポートができる。ニコチン依存を管理するための薬物療法は、禁煙を成功させる可能性をかなり改良でき、1日あたり10本以上のタバコを吸う人々のために推奨される。すべての介入は、個人の事情と考え方に合わせて調整するべきである。</p>

論文のタイプ	
Author	N. I. Vokes;J. M. Bailey;K. V. Rhodes
Title	Should I give you my smoking lecture now or later? Characterizing emergency physician smoking discussions and cessation counseling
和訳タイトル	今もしくは後で、喫煙の講義を差し上げましょうか? 喫煙の議論と禁煙カウンセリングをしている救急医について
Journal	Ann Emerg Med
巻	48
号	4
ページ	406-14, 414 e1-7
年	2006
キーワード	
読んだ人	黒崎
読んだ期日	March 14, 2009
重要度 (アカデミック)	
重要度 (啓蒙的)	
抄録	<p>研究目的：救急医が患者の喫煙を記載する頻度と方法を調査する。</p> <p>方法：緊急時の医師患者コミュニケーションに対するコンピュータベースの健康危険度評価の効果を調査するトライアルで集められた、医師患者間の 871 個の録音テープに対し、二次分析を行った。同意した非緊急時の女性患者（18-65 歳）が、救急科受診時の録音をするために、二つの社会経済的に多様な地域の大学の救急科 (EDs) から登録された。喫煙に関する会話の性質を特徴付けるために、喫煙に関する会話の含まれる録音記録が構造化されたコーディング形式で独自にコード化された。救急医が女性患者の喫煙暴露歴をスクリーニングしたり議論したりすることに関する因子を見つけるために、ロジスティック回帰を使用した。結果：871 人中の 484 人 (56%) は、喫煙に関して口頭で質問され、484 のうち 156 人 (32%) が現在の喫煙を明かした。両方の施設で同様の喫煙率であった。都市部において、喫煙スクリーニングがより高く (odds 比 2.2、95%の信頼区間 1.3-3.5)、喫煙関連の議論の速度が低かった (odds 比 0.41、95%の信頼区間 0.17-0.98)。</p> <p>両方の地域で、医師は、喫煙により健康状態の悪化した患者に対</p>